

県西教育事務所だより

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 令和4年10月26日発行(第5号)

各種推進計画等の進捗状況の確認、見直しを

今年度も後半に入りました。各学校で、年度当初に作成した各種計画について、その進捗状況の確認、点検・見直し(すぐに修正し今年度中に実践、次年度に向けた新たな課題となるか等)をお願いいたします。常に改善・改革の視点を持ち、社会の変化・学校の実態に対応することで、後半の児童生徒の健やかな成長と学校教育活動のさらなる充実に結び付けていきましょう。

進捗状況確認・見直しの例 —キーワードは「自校化」—

例: 学力向上ロードマップ

- 学校改善プランと関連付けながら、実践されていますか。
- 校内研修計画とリンクしながら、実践されていますか。
- 全教職員間で共通理解をし、共通実践することができていますか。
- 自校の目標達成に向けた到達度はどの程度ですか。
- RPDCA サイクルを確立しながら実践できましたか。
- 短期・中期の目指す児童生徒像は適切ですか。

例: 道徳教育推進計画等

- 自校の重点目標は適切ですか。
- 自校の全体計画、年間指導計画、別業での重点目標に係る内容項目の時数は適切ですか。
- 自校の全体計画、年間指導計画、別業における教材配列、指導の時期は適切ですか。
- 年間指導計画での指導過程、指導や評価方法、発問等の記録を蓄積していますか。

道徳教育の推進に向けて 「第2回道徳教育推進教師代表者会議」

9月28日(水)、県西生涯学習センターにおいて、「令和4年度 第2回道徳教育推進教師代表者会議」を開催しました。その中の研究協議では、以下のようなことについて熱心に議論が行われました。

- ・相互授業参観やローテーションによる道徳授業の実践例や ICT の効果的な活用例
- ・板書を記録し蓄積するなど、道徳の授業についての情報共有の在り方
- ・情報交換する時間を確保するための工夫
- ・「道徳コーナー」の充実等、道徳教育を推進するための環境(言語環境)づくりの工夫
- ・学校行事と連携させた年間指導計画等の見直しや、保護者と連携した授業実践

各学校でも、上記下線部等の視点で、道徳教育推進教師を中心に、児童生徒の実態に応じて、「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組んでいただきたいと思います。



【お知らせ】右記の文部科学省のサイトには、道徳教育の実践に関する各種情報が掲載されています。茨城県からの資料に加え、ぜひ、ご活用ください。【URL】<https://doutoku.mext.go.jp/>



3年ぶりの開催 「県西地区科学研究作品展」



9月28日(水)～10月3日(月)、古河市地域交流センター(はなももプラザ)にて3年ぶりに、県西地区科学研究作品展を開催しました。作品展には、各市町から科学研究作品、発明工夫作品がそれぞれ60点出展されました。科学研究作品では、継続的に研究を積み重ね、内容・質ともに完成度の高い作品が多く出品されました。また、発明工夫作品では、日常生活に役立つアイデアが生かされた作品が多く出品されました。

今後も理科の授業を通して、自然の事物・現象から問題を見出し、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈するなどの問題解決学習を充実させることで、児童生徒の探究する力を育成していきましょう。

令和4年度 第2回 コンプライアンス確保に向けた校長研修

9月16日(金)、県西生涯学習センターにおいて、「令和4年度第2回コンプライアンス確保に向けた校長研修会」を開催しました。今年度、県西管内では、交通事故(加害)や速度超過の発生、不適切な指導(暴言、ハラスメント等)の相談案件の多さが特徴としてあげられます。

<研修会での伝達内容>

☆これまでの取組の再確認 [Step 1]

- 懲戒処分の指針の一部改正等
- コンプライアンスだよりや各種研修会での注意喚起
- 特色ある取組
 - ・風通しの良い職場環境づくり
 - ・全教職員との面談
 - ・セルフチェックシートの活用 等
- 階層別研修
 - ・管理職対象研修
 - ・若手教員対象研修
 - ・会計年度任用職員研修 等

☆現在求められている取組 [Step 2]

- 教職員の非違行為をもたらず認知バイアス(思い込み)の研修
- 校内コンプライアンス推進委員会の活性化 等

☆事後対応から未然防止に向けて [Step 3]

- 効果的な取組の共有と横展開
- 管理監督責任の厳罰化 等

現在はこの段階です。

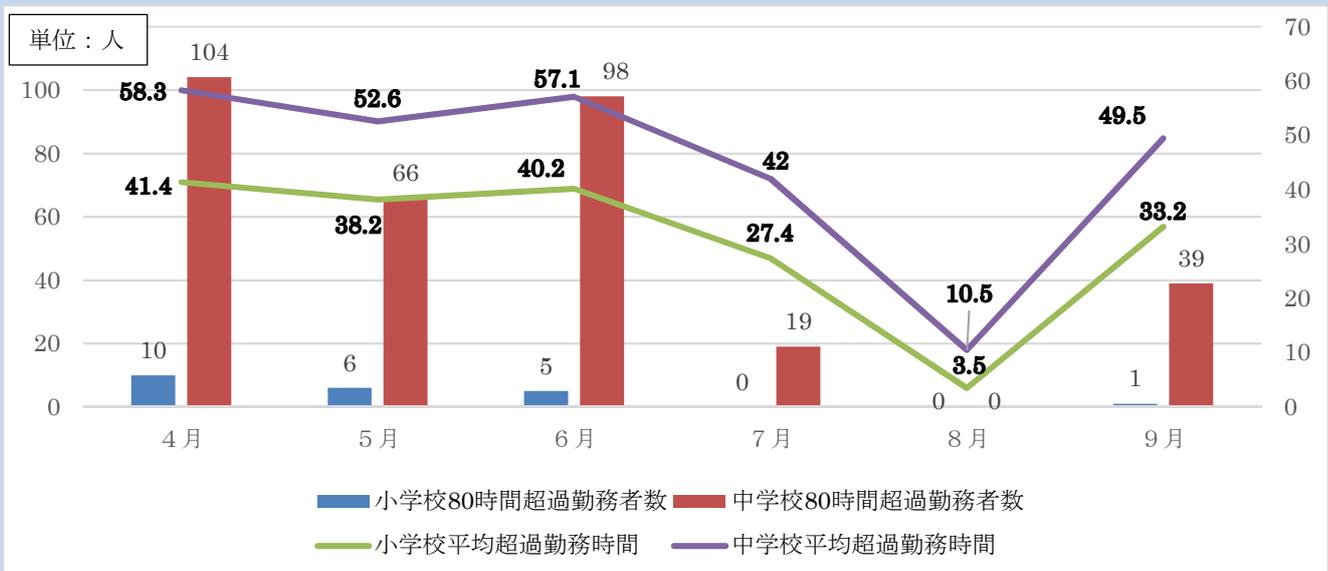
<研修会で提案された今後取り組むべき新たな対応策>

- ・民間企業やバス会社の社則を研修に活用
- ・研修会の実施【専門家、動画、資料、被害者の声】
- ・処分事例集の作成と活用
- ・会計年度任用職員に対しても自己申告書の活用
- ・年代別に必要な研修の実施
- ・研修の実施【ロールプレイなど】
- ・ヒヤリハットの自校版作成 等

各学校が実践している効果的な取組につきましては、今後もWebex等を活用しての資料を共有していきたいと考えております。不祥事ゼロを目指し、今後ご協力をお願いいたします。

<県西管内の働き方改革の現状>

下のグラフは令和4年度の管内教職員の校種別80時間超過勤務者数(棒グラフ)と平均超過勤務時間(折れ線グラフ)の推移です。



昨年度に比べ小学校では専科教員の全校配置・派遣や日課表の見直し(授業開始時間の繰り上げ)等、中学校では部活動数の適正化や複数顧問制による単独指導により、超過勤務時間が減少しています。今後のさらなる取組の工夫により、令和4年度末「月45時間超ゼロ」を目指しましょう。

学校教育の質の向上・教職員の心身の充実・教職の魅力向上と教員志望者数の増を